

2 土の人(地元住民)が見た「竜串」(地元住民アンケート調査結果)

竜串に生活している土の人(地元住民)。彼らは地元「竜串」の自然(サンゴ)をどのように見ているのでしょうか。

土の人の意識を把握するため、アンケート調査を実施しました。

【アンケートの概要】

■調査の目的：自然再生事業を地域において展開するため、竜串の自然環境の変化や流域住民の再生活動への参画意欲、またその可能性などを把握する。

■調査の対象：土佐清水市三崎川、宍喰川流域住民（1,819世帯）

■調査の方法：集落区長から各世帯へ配布、郵送にて回収

■調査の期間：平成16年11月25日～平成16年12月15日

■回収数：460部（回収率25.3%）



土の人の声を聞く (地元住民アンケート調査結果)



アンケート調査表を見る



アンケート調査結果を見る



地元住民アンケート調査結果

(1)回答者属性

アンケート回答者の属性を表1(1)-(2)および図1に示します。
表1(1) 回答者属性(年齢・性別)

	年代								計
	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答	
男性	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (2.6%)	21 (9.1%)	41 (17.7%)	71 (30.7%)	92 (39.8%)	0 (0.0%)	231 (100.0%)
女性	1 (0.5%)	4 (1.8%)	14 (6.3%)	28 (12.7%)	36 (16.3%)	54 (24.4%)	84 (38.0%)	0 (0.0%)	221 (100.0%)
無回答	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (37.5%)	5 (62.5%)	8 (100.0%)
計	1 (0.2%)	4 (0.9%)	20 (4.3%)	49 (10.7%)	77 (16.7%)	125 (27.2%)	179 (38.9%)	5 (1.1%)	460 (100.0%)



「竜串」の主要な産業の1つ、農業

表1(2) 回答者属性(職業)

農業	64 (13.9%)
林業	6 (1.3%)
漁業	20 (4.3%)
会社員	34 (7.4%)
自営業	39 (8.5%)
公務員	23 (5.0%)
パート・アルバイト	20 (4.3%)
学生	0 (0.0%)
主婦	71 (15.4%)
無職	156 (33.9%)
その他	15 (3.3%)
無回答	12 (2.6%)
計	460(100.0%)

注)四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある。

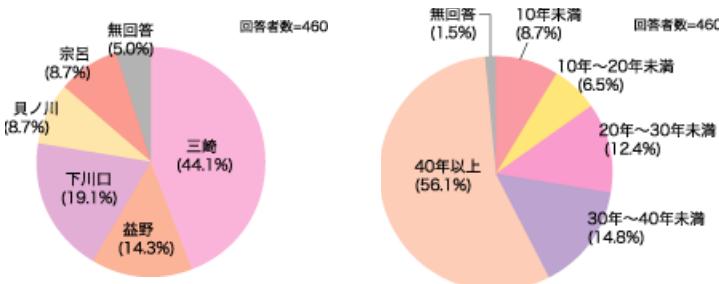
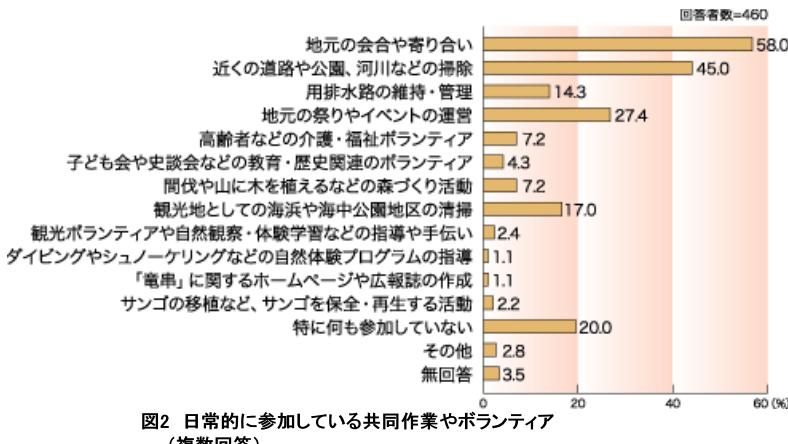


図1 回答者の居住地および居住年数

(2) 日常的に参加している共同作業やボランティア

地域住民が、日常的に参加している共同作業やボランティアの内容を聞いてみました(図2)。

「地元の会合や寄り合い」が最も高く、58.0%でした。次いで、「近くの道路や公園、河川などの掃除」が45.0%、「地元の祭りやイベントの運営」が27.4%と続いています。「特に何も参加していない」という回答が20.0%あったものの、約8割の住民が何らかのかたちで地域のために活動しており、その意識は高いことがうかがえます。

図2 日常的に参加している共同作業 やボランティア
(複数回答)

(3)「竜串」の魅力

地元住民はどのような点を竜串の魅力と考えているのでしょうか(図3)。

アンケートの結果からは、「奇岩や変化のある地形が面白いこと」が最も高く、およそ8割の住民がこの項目を挙げています。次いで、「サンゴ群が美しいこと」(36.5%)、「海浜や町の風景など竜串全体の景観が美しいこと」(35.4%)、「海の透明度が高いこと」(31.3%)が30%を超えています。また、「新鮮な魚介類などおいしい食べ物がたくさんあること」も26.3%と比較的高く、総じて海の景観やそれによって育まれる素材が地域の魅力として捉えられていることがわかります。

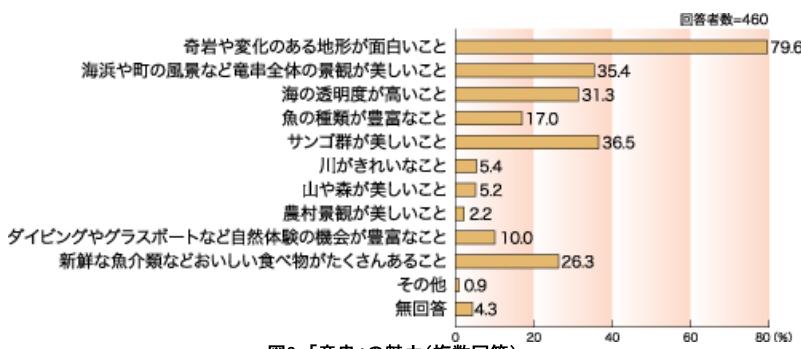


図3 「串」の魅力(複数回答)

(4)「串」で昔と比べて変化したところ

串で昔と比べて変化したところについては(図4)、「耕作放棄地がふえた」、「海がにごった」がそれぞれ43.0%、41.7%高い割合を示しています。次いで、「川がよごれた」(35.0%)、「魚の種類や量がへった」(33.3%)、「山や森が荒れた」(32.4%)、「川の水がへった」(31.7%)といった回答が多くなっています。

一方、例えば「海の透明度が上がった」、「川がきれいになった」といった良い方向への変化を感じている回答は全て3%に満たず、全体的に悪い方向に変わったことが認識されていることが明らかとなりました。

その他の回答としては、「海藻類が激減した」、「浜辺(桜浜)の砂がへった」といったように、やはり悪い方向への変化を感じさせる回答が見されました。

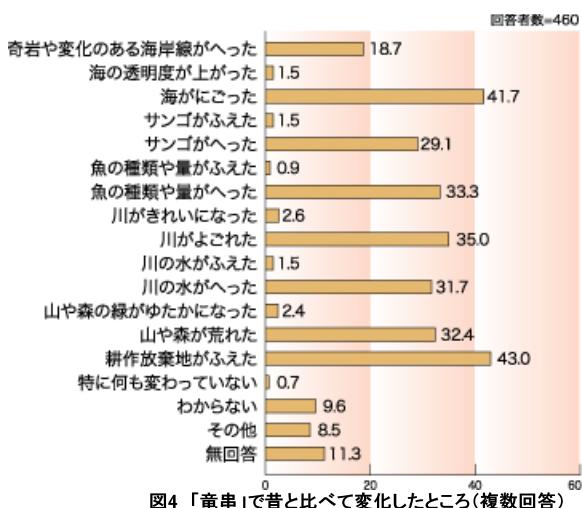


図4 「串」で昔と比べて変化したところ(複数回答)



河川からの濁水の流入によりにごった海



耕作放棄地

(5)悪い方向へ変わった年代

先ほどの設問への回答に基づいて、特に悪い方向に変わった項目に注目し、その年代について整理しました(図5)。

その項目は、以下の6項目です。

- 耕作放棄地がふえた
- 海がにごった
- 川がよごれた
- 魚の種類や量がへった
- 山や森が荒れた
- 川の水がへった
- サンゴがへった

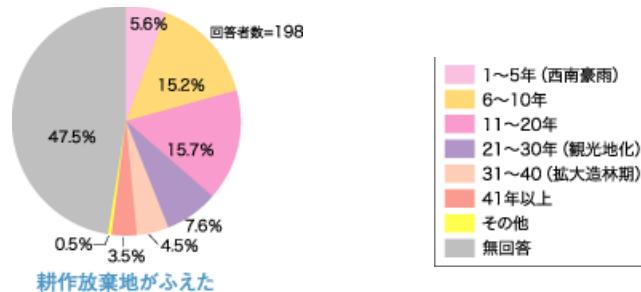
その結果、全ての項目において無回答が40%前後あるものの、全体的には「1～5年(西南豪雨)」、「6～10年」、「11～20年」をあわせた20年以下の回答が30%以上を占めています。

特徴的なものとしては、「海がにごった」、「川がよごれた」という項目について、双方とも「1～5年(西南豪雨)」が最も多く選択されており、それぞれ24.0%、17.4%でした。この結果は、西南豪雨による土砂の流出が川と海に直接的に影響していることを感じさせるものといえます。

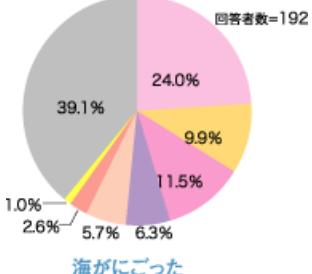
一方で、「サンゴがへった」という項目については、「6～10年」が17.2%と最も高く、西南豪雨以前からサンゴの衰退を意識した地元住民が多かったことがうかがえます。



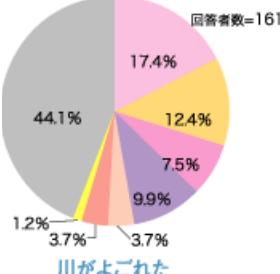
西南豪雨災害の爪痕(崩壊跡地)



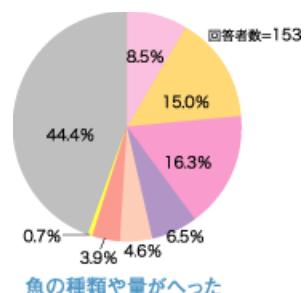
耕作放棄地がふえた



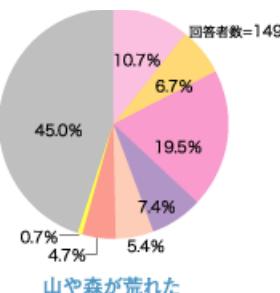
海がにごった



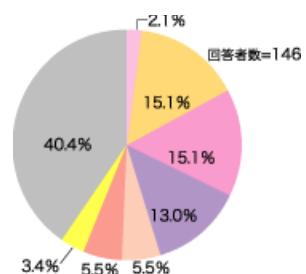
川がよごれた



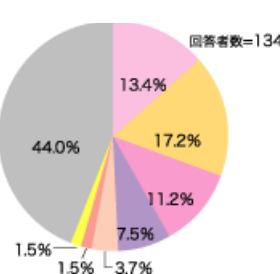
魚の種類や量がへった



山や森が荒れた



川の水がへった



サンゴがへった

図5 悪い方向に変化した年代

(6) どうすれば「竜串」はさらに魅力的になるか

どのような取り組みを進めれば竜串はさらに魅力的になるかについては(図6)、「サンゴ群や景観など、地域の資源を守る活動をさかんにする」が最も高く、48.3%の回答を得ました。次いで、「交通の便を向上させる」が38.0%でした。以下、「地元の食材を活かした料理や特産品を開発する」(23.0%)「自然体験活動や海浜・河川清掃活動など環境に関するイベントを開催する」(22.8%)と続きました。

4割弱の住民が交通の便の向上という基盤整備に係る取り組みが地域の魅力向上につながると考えてはいるものの、それ以外の回答からは、多くの人たちが自然資源を守る活動をさかんにし、かつその資源を活かしていくアイデアが重要と考えていることがわかります。

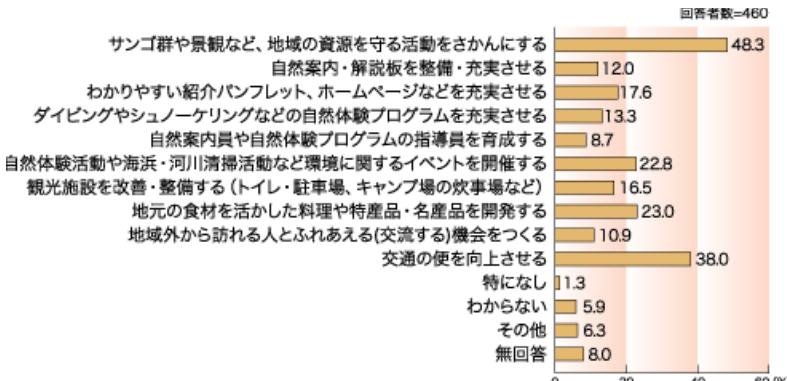


図6 竜串を魅力的にさせる方策(複数回答)

(7) 「竜串」のサンゴ群が劣化・減少していることの認知度

竜串のサンゴ群が劣化・減少していることを知っていたかについては(図7)、「知っていた」と回答した住民が77.0%と「知らなかった」(18.5%)を大きく上回っており、その認知度は高いようです。

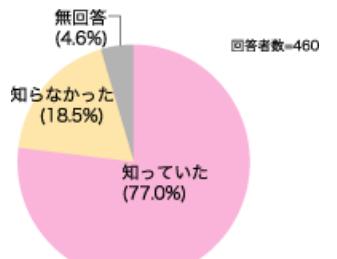


図7 竜串のサンゴが劣化・減少していることの認知度

(8) サンゴ群の劣化・減少の事実を知り得た手段

サンゴ群の劣化・減少を知っていた住民に対し、その事実を知り得た手段についてたずねました(図8)。

知り得た手段としては「人から聞いた」が最も高く、39.0%でした。次いで「テレビ・ラジオ」が20.1%でした。

地元住民ということもあってか、「実際に潜ってみて」という回答も13.0%を占めています。

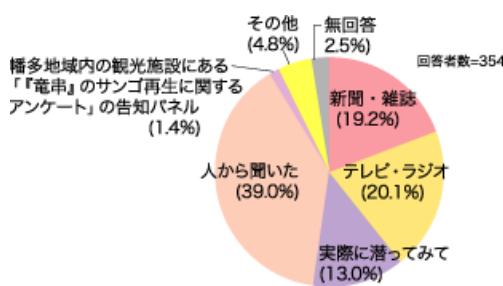


図8 サンゴ群の劣化・減少の事実を知り得た手段

(9)「竜串」の自然(サンゴ)再生のための活動への参画意志

竜串の自然(サンゴ)再生活動への参画意志についてたずねた設問の結果が図9です。

「積極的に参加したい」(4.1%)、「自分のできる範囲で協力したい」(60.4%)といった協力意志のある住民は、あわせて64.5%に上りました。

一方、「あまり参加したくない」(4.6%)、「参加したくない、興味がない」(2.8%)という参加を拒否する姿勢の住民はあわせてわずか7.4%にとどまり、全体的に自然再生への参画意欲は高いものといえましょう。

ただし、「わからない」という回答も15.7%あり、自然再生そのものの広報と地域住民が参加できるメニューなどを地域内に広く知させていくことが課題として挙げられます。

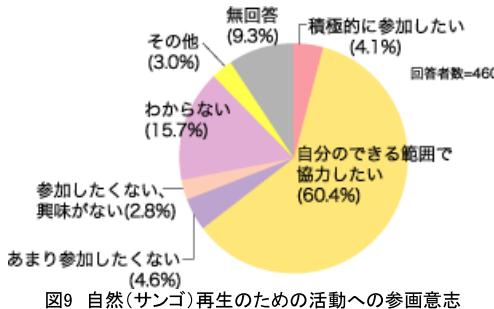


図9 自然(サンゴ)再生のための活動への参画意志

(10)「竜串」の自然(サンゴ)再生のために関わること

先の設問で、「積極的に参加したい」あるいは「自分のできる範囲で協力したい」と回答した協力意志のある住民に再生のために関わることの内容についてたずねました(図10)。

最も多かったのは、「川や海をよごさないために、家庭などから出す排水に気をつける」で、75.8%でした。次いで、「観光地としての海浜や海中公園地区の清掃活動などへの参加」が52.5%、以下、「間伐や山に木を植えるなど、上流域の森づくり活動への参加」(26.9%)、「話し合いや協議会への参加」(23.6%)と続いています。

この結果、自然再生への協力の方法として、まず日常的な生活の中で環境に配慮することを意識・実践し、また、観光地である海中公園地区の清掃等に積極的に参加する住民の意志が明らかになりました。

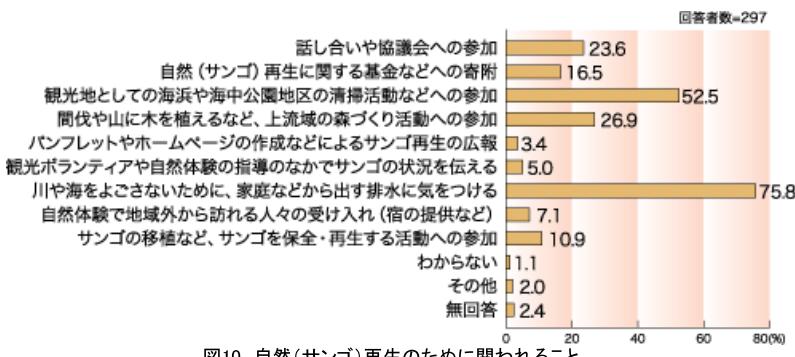


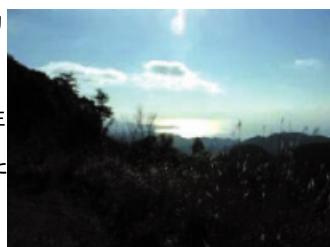
図10 自然(サンゴ)再生のために関わること

(11)「竜串」周辺で魅力的だと感じる場所

地域に住み続けた地元住民の目から見て、「竜串」周辺地域で魅力的だと感じる場所を3つまで自由に記述してもらいました。その結果を地図上に整理したものが図11です。

具体的には、一般的に知名度の高い観光地だけでなく、地元住民が日常的に接している小河川や田園風景、居住集落の前の海など住民にとって身近な場所が多く挙げられている点が特徴的です。

これらの住民にとって身近な場所(自然)には、その土地で培われた文化があります。このような身近な自然そしてその地で育まれた文化を維持、再生することも自然再生の命題の1つといえましょう。



今ノ山からの眺望

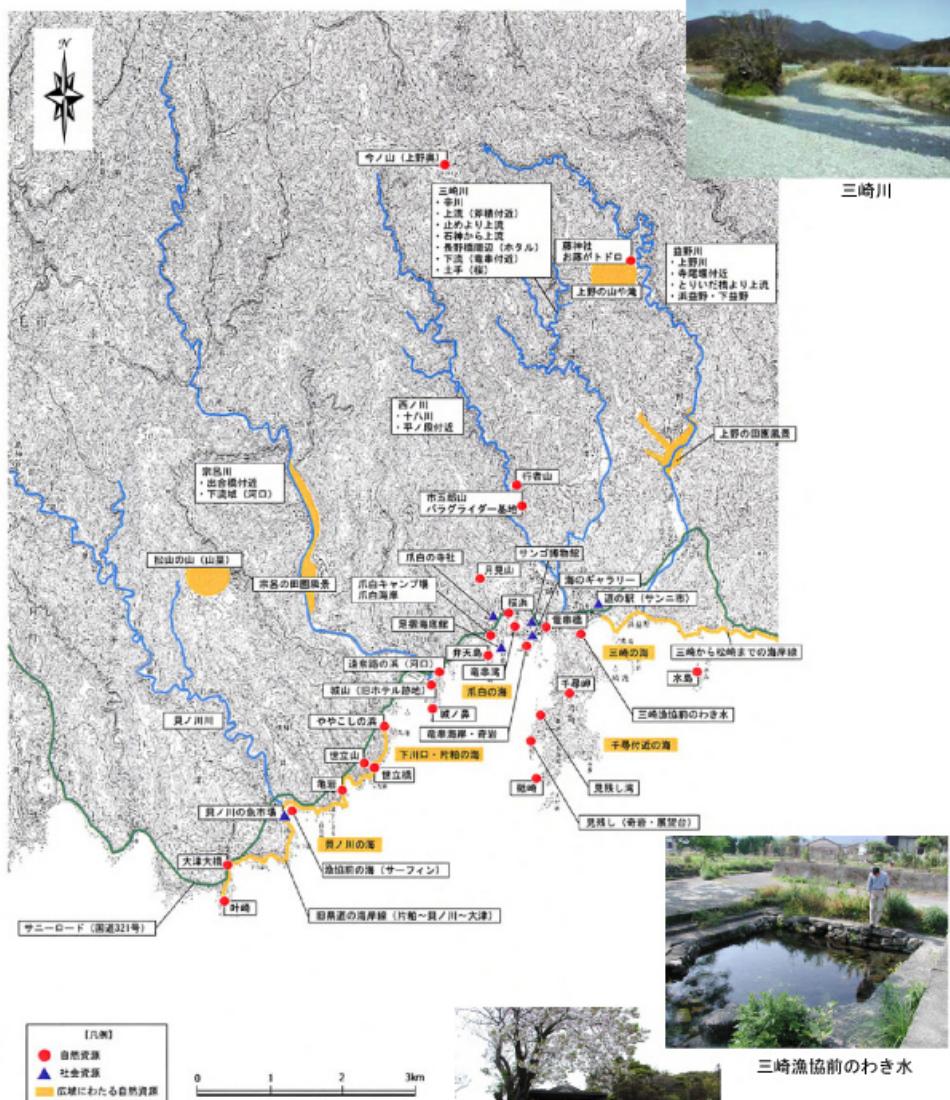


図11 竜串で魅力的だと感じる場所



爪白の泉浴堂

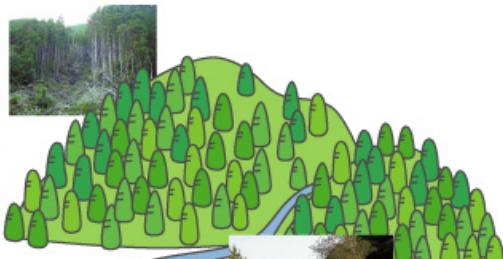


(12)「竜串」についての意見(自由回答)

アンケートの最後では、「竜串」について、日ごろ気になっていることや困っていること、「竜串」をこういう地域にしたい、といったような「竜串」に関する自由な意見をお聞きしました。

具体的には、次のような意見が見られました。

山 奥の山の人工林化（ヒノキ、スギ）が進むにつれて、まず川が荒れきました。雨が降ればすぐ濁流となり、時には洪水が起こります。日照りが少し続ければ水が枯れ、当然のように川魚は姿を消しました。それが海にも影響し、群れるように泳いでいた港の小魚は完全に見られなくなりました。（70代・男性無職）



くらし 「竜串」は空気、景色、海ともにとても良い所だと思います。ですが、残念なことに、住んでいる人たちはほとんどが50歳をすぎた人ばかりで、若者が帰ってこないかぎりこの美しい景観は失われると思います。地域に働く場所があれば、少しずつでも若い人がふえると思います。そうすれば、竜串ももっと良くなると思います。（60代・男性無職）



川 自然再生をとねる一方で、みんなの目の前を海にむけて流れている生活排水があります。また、むかしの感覚そのままに「海に流れるからよい」といいつつ、目の前の溝にゴミなどを流すお年寄りの姿も目にします。生活の土台から考え直さないと再生はありません。（40代・女性主婦）



海 むかしは磯に行くといろいろな魚がたくさん釣れたり、貝類もたくさん採れたのに、現在はまったくといっていいほど、魚が釣れなかったり、貝類もとれません。むかし通りとはいいませんが、もう少し魚介類が多くなって欲しいと願っています。（50代・男性土木作業員）

これらの意見からは、地元住民は「生活と身近な自然」の変化に関心を持っていることがわかります。これは、地域に長年生きる人だからこそ感じ取れるもの。この変化を少しでも良い方向へ変えていこうと思う気持ちが“自然再生のはじまり”であるといえましょう。

このアンケートで得られた意見は、今後の竜串の自然再生事業に反映させていく予定です。